

PARIS

パリについて10日ほど経ち、少しずつ生活が落ち着いてきました。
パリの夏は日暮れが遅く、のんびりと街を巡ることができます。



友人が勧めてくれたセーヌ川の橋からの景色。ノートル・ダム大聖堂と奥に小さくエッフェル塔を望める

勉学の状況

大学が9月始まりのため、今は大学側からもらった100ページを超えるフランス語の授業カタログを読みながら、取りたい授業を選んでいきます。オリエンテーションの際、自分のポートフォリオのプレゼンをするので、その準備も行っています。

先日、アパートを探しているときに知り合った友人に大学を案内してもらいました。彼女が専攻しているテキスタイルデザインの教室には、何十台もの織り機があり驚きました。夏休みが明けて、その教室で学生が作業している姿を見るのが楽しみです。

また、語学学校には時期が合わず行くことができなかったため、フランス語の勉強は千葉大学で使っていたテキストを基に行っています。家では、フランス語で話しかけるよう心がけています。街中でもフランス語で話しかけられるので、笑顔での受け答えを大切にしています。聞き取りに奮闘中ですが、先週、友人の知人の誕生日会に招いてもらいました。フランス語でのおしゃべりに圧倒されましたが、時々英語でも説明してもらい楽しい時間を過ごせました。打ち解け、文化を学ぶためにもフランス語を少しでも上達させたいです。

生活の状況

パリの街は歴史ある建物を使い続けており、小さなお店が多く、歩き回るといつも発見があります。東京とは違った都市のあり方を感じられます。ENSCIの学生証をもらえると美術館が無料になるらしいのですが、時間がある時になるべく見ておこうと思い、一日一美術館を実行しています。今の一押しは装飾芸術美術館とオランジュリ美術館です。美術品はその土地の歴史をととてもよく物語ってくれます。知識を蓄え、注意深く観察したいです。

Musée des Arts Décoratifs

インテリアや宝飾品、ポスターなど様々なものが展示されています。時代ごとに生活空間が再現されていて、家具一つ一つの説明がとても興味深かったです。20世紀以降の家具の展示が10月にリニューアルされるそうで、再訪予定です。

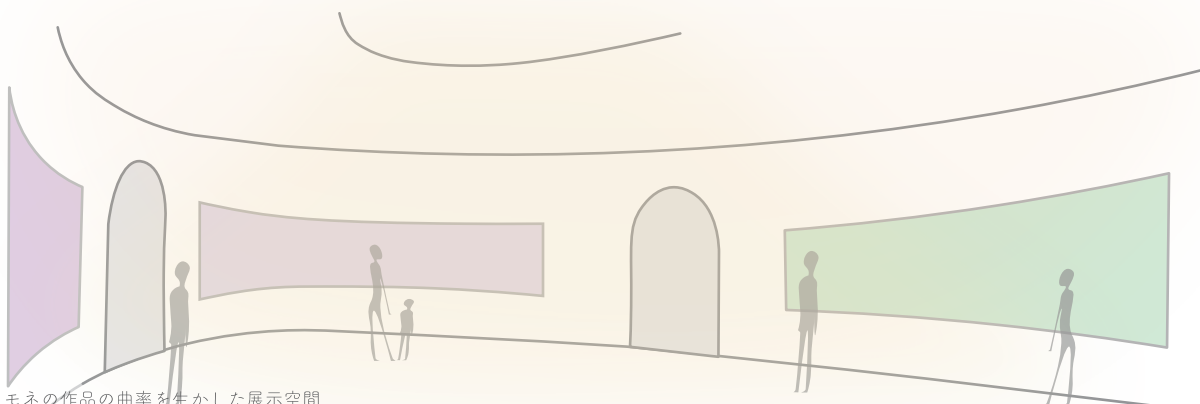


アール・デコの家具。天板に木の濃淡を生かした風景が描かれており美しい

Musée de l'Orangerie

クロード・モネの壮大な「睡蓮」をじっくりと眺めることができ感動しました。何度でも足を運びたい場所です。モネが指示したという展示空間も興味深く、太陽光が優しく差しよう設計されていました。印象派の画家たちの作品を多く展示しているプティ・パリやモルマッタン・モネ美術館にも週末赴こうと思います。

天窗により自然光が絵画を照らすように作られた美術館内部



モネの作品の曲率を生かした展示空間



秋を感じるほおづきのような実 @Le jardin du Luxembourg

PARIS

9月後半から気温が一気に下がりもうマフラーと手袋が必要になってきました。日の出も7時半と遅く、初めてのヨーロッパの冬を乗り切れるのか不安になっています。3週間のワークショップを終え、大学にも慣れてきました。

勉学の状況

WS for new students

授業のガイダンスが終わった次の週は新入生に向けたWSで、留学生もこれに参加しました。今年のテーマは「Mettre le son」（訳：「音を身につける」）でWS最終日に行われるファッションショーのために「音」をテーマにした服をデザインするというものでした。グループごとに一つの素材が指定され、私のチームは青と黄色のビニール袋が渡されました。服のデザインと

並行して会場の設営やステージでの演出をグループで工夫しました。メンバーの意見をどうまとめるか、チームの中で自分がどうあるべきかを考えさせられました。与えられた素材に縛られないユニークなファッションも多く、ENSCIの上級生も足を運んでくれ、素敵なファッションショーを成功させることができました。



2色のビニール袋を用いて作った衣装、「戦い」をコンセプトに演出を考えた



Intensifs 1 [Culture Code]

10月の後半は Intensifs という短期集中型のWSが2週に渡り行われます。Intensif1では、「Culture Code」というプロセッシングを用いたプログラミングのクラスに選ばれました。クラスは十数人で、先生は学生一人一人と話し、その学生が作りたいものに対しアドバイスやフィードバックをしてくれました。卒業研究の際、プログラミングは扱いましたが、改めて向き合ってみると自分の知識に穴が多いことに気づかされました。インターネット上のソースを参考にしたり、友人に意見を求めたり、逆に友人のプログラムと一緒に考えたりと濃い5日間でした。私はカメラで複数人の顔を認識し、その動きを色としてペイントするプログラムを作成しました。最終日にはプレゼンがあり、通りすがりの学生に作品を体験してもらい感想を教えてもらいました。改善点を素直に言ってくれるため勉強になりました。また、他のWSのプレゼンも同時並行で行われており、自由にプレゼンを見て回ることができ、興味深かったです。

上2枚：プログラミングの体験の様子 / 下2枚：顔の動きによって描かれた画像

Intensifs 2 [Volume et Couleur]

Intensif2 では「Volume et Couleur」を受講しました。この授業では、各人「ボリューム」から連想される物を持ち寄り、それらの共通点や組み合わせを探り、表現するというものでした。最初、フランス語での説明をよく内容が理解できず、スタートが遅れてしまいました。しかし、クラスメートがそれぞれの学生が表現しようとしていることを教えてくれ、自分のやりたいことが見え始めました。どの授業も基本的にフランス語なので、英語で手助けしてくれる友人には感謝してもしきれません。この授業では「どう見せたら美しいか」をずっと自分に問い続けていた気がします。私は、光と陰を魅せる作品を仕上げましたが、他の学生の工夫を凝らした作品には感動しました。もっと視野を広げ、多角的にもものを見られるようになりたいと思います。

通常の授業が始まってからも同じ先生の「Volume」という授業を取る予定なので、セミナーの中で力をつけたいです。



光を透過させたり、反射させて光の魅力を探りました

生活の状況

Maison & Objet Paris

パリの郊外で開催されていた展示会に友人と訪れました。カテゴリーごとに会場が分かれており、maison(住空間)の会場では展示空間で時間が過ごせるよう、それぞれのコンセプトにあったレストランやカフェが併設されており、興味深かったです。日本のキッチン用品メーカーもヨーロッパ限定販売の商品を出展していて日本語で話しを聞くことができました。またENSCIもプロジェクトの成果を展示していたのですが、会場が広すぎて見つけれなかったことが心残りです。

les journées du patrimoine

9月14/15日は、les journées du patrimoine (patrimoine : 遺産) という普段は見られない美術館や施設が無料解放されている週末でした。どの場所も混雑するため、朝から友人と入場列に並びました。パリ市庁舎に務める人達の勤務場所になっている歴史的建物や親衛隊の警察署を訪れました。荘厳で煌びやかな建物の中で日常的に働ける人達を羨ましく思います。フランスの歴史や文化を友人に解説してもらい発見の多い1日でした。



フランス語の授業と日本語の授業

ENSCI にはフランス語を教えてくれる授業がありませんが、友人がボランティアで、留学生 10 人に対し毎週 2 時間のフランス語の授業を開いてくれます。毎週、文法や役に立つ言葉をスライドに分かり易くまとめてくれて、発音の練習もしてもらっています。また、留学生同士で勉強方法を教え合ったりと、誰かと学ぶことで自分の悪い癖や得意な点が把握でき効果が大いような気がします。そして、彼女のように行動できる人になりたいと素直に思います。彼女の厚意に恥じぬよう、フランス語を学んで身に付けたいです。

また、日本にとっても興味があるという友人に毎週日曜日、カフェで日本語を教えています。ひらがなとカタカナを独学でマスターしたらしく、さらに松任谷由実さんといった日本の歌手や漫画、アニメに精通しているのには驚きでした。その友人にもフランス語を教えてもらっており、日本語とフランス語の文法の違いを英語で伝え合うのに毎度四苦八苦しています。母語ですら的確に説明できないことを気づかされ、私も日本語を再度勉強中です。

Japonismes 2018

今、パリを中心に「日本」をテーマにした展示が数多く行われています。エッフェル塔も日本カラーにライトアップされたことは、日本でもニュースになっていたことと思います。個人的なことですが、私は SMAP のファンだったので香取慎吾さんがグループの一角で個展を開催すると知った時は興奮しました。私にとって大スターの彼の世界観を目の前で観ることができ本当に感激しました。



PARIS

10月に入り本格的に授業が始まりました。授業が毎日ある生活は久しぶりな気がします。課題や作業で大学で過ごす時間が長くなっています。

先日、ダウンコートと箸が実家から届きました。Operaの方に日本食スーパーがあり週2くらいでうどんを食べていますが、送ってもらった箸で食べるうどんは格別でした。冬をサバイブできそうです。



勉学の状況

1 授業 4 時間あるため時間割はシンプルです。週 1 の授業を 3 つと、週 3 回授業のある Atelier を受講しています。どのクラスも学生は 20 人以下で、先生や学生と頻繁にコミュニケーションを取る事が出来ます。

	Lundi	Mardi	Mercredi	Jeudi	Vendredi
9:00	Volume		Studio		Atelier
13:00					
14:00		Atelier	Urban Politics	Atelier	Atelier
18:00					

Atelier_ Ville de Paris

9 つある Atelier の中から「Le Jardin du Luxembourg に建てる仮設幼稚園をデザインする」コースを選択しました。今月は調査を主に行い、市内の幼稚園を 2 箇所訪れました。8 時から 17 時まで幼稚園にお邪魔し、園での一日の動きや園児たちの遊びの様子、先生が抱える問題などを調査しました。

現在は調査をもとに、各々、提案の方向性を定めているところです。私は幼稚園での空間の使い方に焦点を当てています。提案内容に制限はなく、学生自身で自由に作業を進めていい点が面白いです。ついつい自分の提案にだけ集中してしまいがちですが、周りはお互いに意見を言い合い高め合っている印象です。私も語学力に臆することなく積極的にコミュニケーションを取っていこうと思います。



訪問した 0 歳~3 歳の子が通う幼稚園の園庭と ENSCI の学生

Studio_ Art plastiques

表現力や手法を学ぶStudioでは「Art plastiques」を受講しています。「動物性を表現する」というテーマが難しく何を制作すればいいか長い時間悩みました。この授業もテーマをどう解釈するかは自由で、毎週制作物に対し先生が親身に相談に乗ってくれます。今回は動物や昆虫の持つ色覚を自分の題材にしました。ただ写真やその編集の技術に乏しく苦戦中です。動物園や博物館に行くなど、とにかく行動を起こしてこの状況を抜け出したいです。

Weekly class_ Urban politicss

この授業では毎回4時間、パリの郊外をサイクリングで走り回っています。訪れる先も観光地ではなく、移民が占拠しているビルやキャンプ、1930年代の集合住宅、そこに住む人々の話など、この授業を取らなければ知り得なかったことばかりで、非常に興味深いです。毎週、その日の道のりと「見た・聞いた・嗅いだもの」をまとめるのですが、その際「携帯のマップや写真を使うな」と注意されました。通った道を覚えること、それを紙の地図で再現すること、この作業を随分久しぶりにしています。スマホが勝手に記録してくれる有難さと、自分で、ものや時間の「つながり」を作る大変さを身に染みて感じています。



Urban politics の1授業分のレポートの一部

Weekly class_ Volume

Intensif workshop での「Volume et Colour」に引き続き、同じ先生の「Volume」の授業を受けています。2回目の授業で自分の制作物をプレゼンする機会がありました。その後、授業でしたい事を尋ねられ、私がこれからする事は、私が過去にしてきた事の中にヒントが隠れていると気づかされました。この授業でも与えられるのはテーマだけで、後は自分の掘り下げ方次第です。先が読めない状態で手を動かすことが苦手ですが克服したいと思います。

生活の状況

シェアサイクル 盗られました



緑の自転車がvelib. 学生だと4時間乗っても3ユーロほどで経済的

Urban Politics の初回の授業で、訪問先にて駐輪したシェアサイクル「velib」を盗られてしまいました。この時、ステーションではない私有地に停めたのですが、自転車のロックの仕方を知らず戻ってきたときには私の自転車だけ無くなっており、若干パニックになりました。その場でサービスセンターに連絡し（友人にフランス語で連絡してもらい）罰金にはならず済みました。警察に届け出るための事情聴取の予約も、翌日クラスメイトに手伝ってもらいました。届出に予約が必要なのは驚きましたが、そのおかげで警察署では簡単に事情を説明し、書類を埋める手続きだけとスムーズでした。

クラスメイトのおかげで大事には至りませんでした。自分の知識、認識不足が招いた事態だと反省しています。また、パリでは不正に使われているシェアサイクルも多く、公共物の管理の課題を目の当たりにしました。

OFII の手続きで電子スタンプを購入しましたが その場で使えないことがわかりました

フランスに滞在する学生は移民局 (OFII) にて滞在許可証を発行してもらう必要があります。8月に提出した書類が受理され、10月中旬に召喚がありました。受理に、収入印紙 (timbre fiscal) というものが必要でタバコ屋に向かったのですが、そこで電子式の収入印紙 (QRコード付) を購入してしまいました。しかし当日、手続きの際「これは使えない」と言われ、急ぎ近くのタバコ屋で再度切手サイズの収入印紙を購入し滞在許可証ました。どうやら電子収入印紙は最新式らしく行政機関が対応できていないようです。現在、返金手続き中ですが、こちらで銀行口座を作っていない私には中々難しいものです。フランスではこのような手続きに長い時間要するそうなので、気長に待とうと思います。

週末は郊外に出かけています

パリから電車で1時間、Provins という町に行ってきました。パリと比べて物価も安く、15ユーロで食べきれないほどのチーズとポテトをいただきました。午後、この町特有の文化である地下道を見学しました。各家が地下に洞窟のようなもの倉庫を持っており、多く枝分かれした複雑な内部は、神秘的で、深い闇に怖さも感じました。華美な作りではありませんでしたが、地下空間での住人の生活を想像する事ができ、興味深かったです。(01の写真)

Provins の古城からの眺め
歴史ある宿場町で中世の頃はフランスで3番目の大きさの街だったそう



PARIS

早いもので Atelier 以外の授業は残すところ数回となりました。最終プレゼンに向け、つい自分の作業に没頭してしまいます。周りの学生との会話を大切に、考え方や進め方を吸収したいです。

11月の寒さにも慣れてきましたが、ある日の Urban Politics の授業が雨の中のサイクリングでした。非常に興味深い授業で毎回楽しみにしているのですが、Semester 1 で4時間外にいる授業を取ったことを後悔する程の寒さでした。



Le Mont-Saint Michel の島内

勉学の状況

授業が忙しくなりと同じ校舎にいても会えない友達が増えました。そんな時、1階の工房エリアがゆっくりと談笑する癒しの空間になります。フランスでは食事は集まって時間をかけて話す場でもあるようで、この時間を大切にしていることが分かります。挨拶のようにプロジェクトの進捗度合いを聞くと、実際にモックアップを見せてくれて意見を求められたりします。このような交流を続けていきたいです。

Atelier_ Ville de Paris

2回の幼稚園訪問と仮説幼稚園の建設予定地の調査を終え、それぞれのリサーチを発表する機会がありました。今後の自分のプロジェクトの進め方を考慮した上で、環境、建築、人間工学、コミュニケーションなどのグループ分かれ調査結果を持ち寄りました。私たちのグループは幼稚園内の環境についてで、園内の温度調節、光環境、遊具などに用いられている素材についてまとめました。それぞれが異なる幼稚園を訪問しており相違点や共通点を話し合いました。

その他に、個々で幼稚園の先生のカスタマージャーニーマップを作成したり子供達の動線をビジュアライズする学生もあり、自主性の高さを痛感しました。今後プロジェクトを進める上で「何が重要か」をそれぞれが見つけて実行しなければいけません。私はその点でまだまだ成長しなければいけないと感じました。

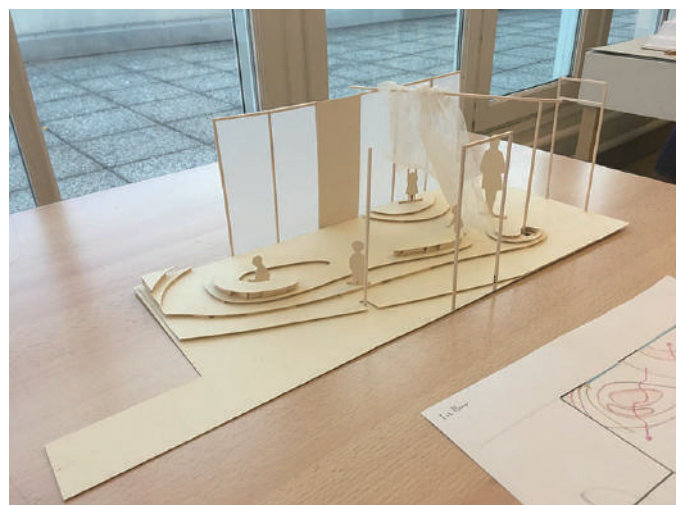
現在はプロトタイプを作成中です。先生から日本での空間の使い方もリサーチしてみるとアドバイスをもらい、日本での事例も調べています。左が一つ目の模型で、現在フルスケールでプロトタイプを作成しています。週に1度はフルスケールでプレゼンを行う機会があるので、制作に追われています。



Le Jardin de Luxembourg 内の幼稚園建設予定地

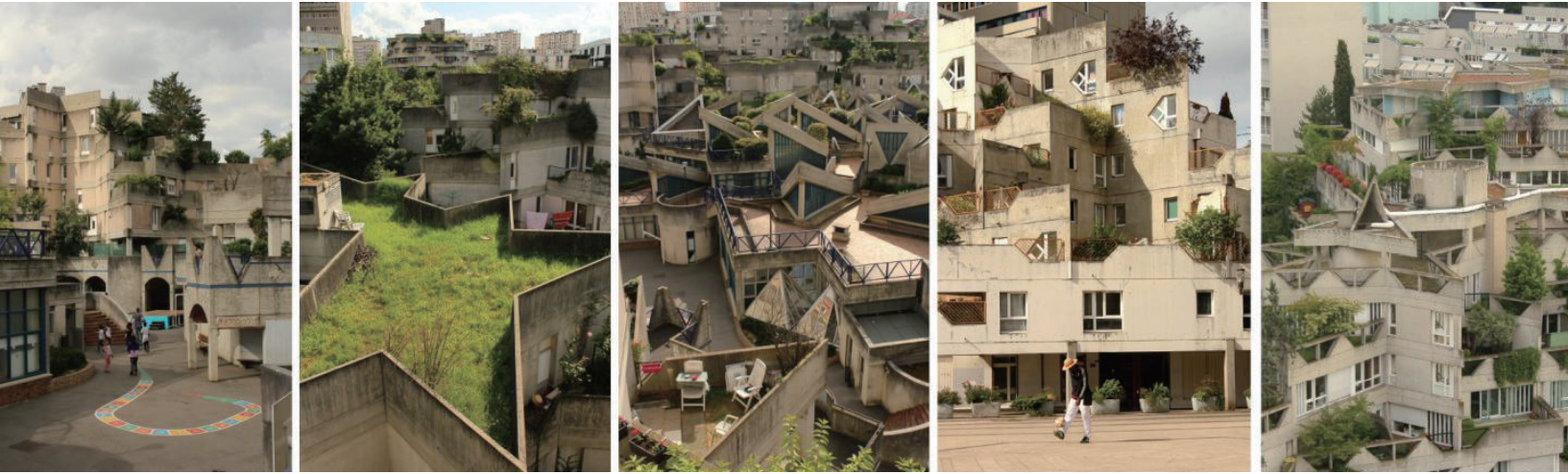


Urban Politics で訪れた公営住宅の広場 遊び空間のリサーチの一つ



プロトタイプ1号 仙田満さんの著書を愛読しています

Weekly Class_ Urban Politics

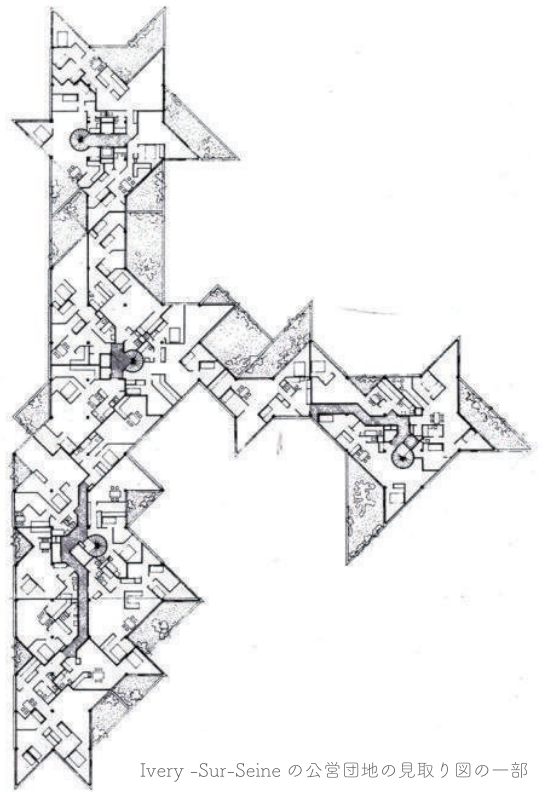


Ivery -Sur-Seine の公営団地の様子

Urban Politics では毎週色々な場所を見に行きますが、そのテーマは一貫しており「移民」「公営住宅」です。ここでは授業で訪れた公営住宅を紹介します。(授業中、写真を撮ることを控えているためこのページの写真はダウンロードしたものです)

Ivery -Sur-Seine の公営団地は建築家 Jean Renaudie 氏によって 1970 年代に建てられました。鋭角の三角形が積み上がった建築が特徴的で、各住空間には深さ 50cm の庭が付属しています。とても魅力的な住宅ですが、見取り図を見ても分かるように、三角形の先端はデッドスペースになりがちで、有効な使い方を見つけるのは難しいそうです。写真では緑が目立ちますが、今年の乾燥と猛暑の影響で実際には草木はほとんど枯れていました。建築当初とは時代も変化し、住む人も変わり、庭の手入れが行き届いている家は少ないようでした。日本と同じように、地域での繋がりも薄くなっていると住民からの話を聞きました。

この授業では解決策には触れませんが、パリが抱える問題に深く切り込める良い機会であり、毎回の授業を楽しみにしています。



Ivery -Sur-Seine の公営団地の見取り図の一部



訪れた他の公営住宅 パリ 16 区

生活の状況



行きはどんより曇りでしたが帰りには快晴になった Le Mont-Saint Michel

Le Mont-Saint Michel

11月中旬の Semaine Bloquée (WS 週間) を利用して、憧れのモン・サン・ミシェルに友人と行って来ました。パリからは距離があるため、観光時間よりも移動時間の方が長い旅でした。砂州を歩き、島が段々と近づくとその堂々たる佇まいに圧倒されました。修道院は建設された時代による変遷が見られ、迷路のような内部はいくらいても飽きませんでした。島に到達する道のみだけでなく、修道院の内部にも階段が多く、ここが巡礼地だった時代を思うとその厳しさを感じます。

私のお気に入りには修道院からの干潟の眺めでした。天候のおかげもあり、天使が舞い降りそうな幻想的な景色に感動しました。色々なところを見ていて思うのが歴史の重要性です。高校での世界史を軽視していた自分を恥じます。先人達の考えや思いを汲み取るために歴史を知りたいと初めて思いました。

修道院からの眺め (Le Couesnon)



Gilet Jaunes

10月の中旬から、パリの中心で Gilet Jaunes（黄色いベスト運動）と呼ばれるデモ活動が頻繁に起きています。最初はパリの外周の高速道路から運動が始まり、週を重ねるごとにその激しさを増し、繁華街で警察と衝突が起きるようになっていきます。私の家の前の通りもデモ活動の場となり、朝からサイレンや発砲音が止まない状況になりました。このデモは来年からの燃料高騰に対するもので参加者も数千人に達しているようです。SNSを通じその規模が膨れ上がったのにも驚きましたが、デモ活動が数千人規模になること自体に恐怖よりも関心を覚えました。

現地の友人からするとこのデモは「暴力的な行為は良くないが、フランス人らしい行動」だそうで、日本でこのような状況になったら人々はどのように行動するかで話が盛り上がりました。もし私が日本の政策に違和感を感じても、今の私はきっとなんの行動も起こさないとします。その前にそもそも興味を抱かないかもしれません。今、世の中で起こっている事に対し、より目を向け、考えを持つべきだと今回のデモを目の当たりにして感じました。催涙ガスなども撒かれているようなので巻き込まれないよう十分注意しようと思います。

ON AIR 展示の様子

ON AIR_ Palais de Tokyo

Palais de Tokyo で開催されていた Tomas Saraceno 氏の ON AIR という期間展に足を運びました。Palais de Tokyo は毎回展示が大変面白く、友人の間でも人気の美術館です。今回は蜘蛛の糸をアートとして展示したものでした。種類の異なる蜘蛛たちが編み出す巣が幾重にも重なり、ライトアップされ柔らかく動く蜘蛛の巣には息を呑みました。遠くから見ても近づいても魅了される「生きた」作品ばかりでした。空気の動きによる蜘蛛の糸の揺れを音として表現する作品もあり友人とその構造について話す時間も面白かったです。





Agrigento in Sicilia 神殿の谷の入り口。12月に菜の花が咲き誇る

PARIS

2018年も最後の月になりました。この4か月間があっという間に感じます。11月下旬から街がクリスマスカラーに彩られ始めます。フランスでは、クリスマスは家族でゆっくりと過ごし、新年は友人と賑やかに迎えるそうです。ENSCIの友人に24日の夜、ホームパーティに招いてもらい、「フランス流のクリスマス」を味あわせてもらいました。

勉学の状況

ENSCIでの授業も終盤に差し掛かってきており、Weekly classesは中旬のプレゼンと展示をもって締めくくられました。その週は、学校の色々な場所で展示が行われており、自分が取れなかった授業を見て回ることができます。作品自体はもちろん、その展示方法やスペースの使い方の自由度も高く、魅力的で勉強になります。私も第2週に2つの授業の展示がありました。

この時期は学生も夜遅くまで学校に残り時間を惜しまず手を動かしています。朝アトリエに戻ってみると制作途中の作品が色々なところに置いてあり負けん気が湧きます。ただ、定規などのツールがしばしば出掛けて帰って来ないことには頭を悩まされます。

勉学の状況

Weekly Classes__Volume

このクラスでは、「量感」と「空間」について考えさせられました。最初私は溶けて変化する蝋燭を用いて量感を表現しようと試みましたが上手く出口を見つけられませんでした。次にアルミホイルに着目し、計25本500m分のアルミホイルを購入しひたすら丸め、ひたすら叩くという作業を続け作品を完成させました。展示方法まで気を配れなかったことが残念ですが、担当の先生から褒めて頂き、他の学生から「クレイジーだね」と言われたのには意外でした。展示では来てくれた学生に二つの球を持って比べてもらい「同じ重さとは思えない」不思議な感覚を体験してもらいました。またこの授業は他の学生の作品も大変興味深く、表現の豊かさに感動しました。



作品 加工方法はひたすらハンマーで叩くこと

_ Urban Politics

Urban Politics 最後の授業は日曜日の朝、あるカフェを貸し切ってそれぞれクレープなど食べ物を持ち寄り授業についてのディスカッション形式で行われました。公営住宅やリノベーション、移民や政府のあり方、メディアについてなど各学生が議題を持ち寄りそれについてプレゼン、その後全体で話し合いを行いました。私は Gilets jaunes（イエローベスト運動）を取り上げデモに関する日本とヨーロッパの扱われ方の違いについて話しました。

この授業を通して今までとは違った街の見方を知ることが出来ました。視野を広く持って生活するべきだと思います。

Studio_Art plastiques

「動物性を表現する」ことがテーマのこの授業に私は一番苦戦しました。動物の色覚に注目しムービーを用いた作品を制作しましたが、素材である写真のバラエティが十分ではありませんでした。動画編集をもっと磨かなければいけないと感じました。素材についてももっと大胆に見方を変えていく必要があります。上手くいかなかった分反省も多い授業でしたが、着眼点を作品に生かす努力が必要であることに気づけました。

Atelier_Ville de Paris

18日に semi final のプレゼンがありました。クライアントと幼稚園の先生方を招いて行われました。この幼稚園では0~3歳の児童が通っているため、他者とのコミュニケーションを取りながら遊ぶようになる2~3歳に焦点を当て柔軟な遊びが出来る遊具を提案しています。プレゼン当日、2種類の遊具を1/1スケール、1/2スケール、1/5スケール、1/20スケールなど様々なサイズのプロトタイプを展示しました。アトリエでは制作に長く時間を割く事ができ、利便性や素材も考慮して制作しました。プレゼンは私が英語で説明し、先生にその場でフランス語に訳してもらいましたが、やはり自分の言葉でプレゼンしたいという思いが強く、言語の重要性を痛感しました。それでもプロトタイプがあるため、クライアントの方も意図を汲み取ってくださり、良い点、改善点、疑問点などを多く教えてもらいました。1月は Atelier の最終プレゼンを残すのみなので注力したいと思います。



Studio_色覚の違いの表現

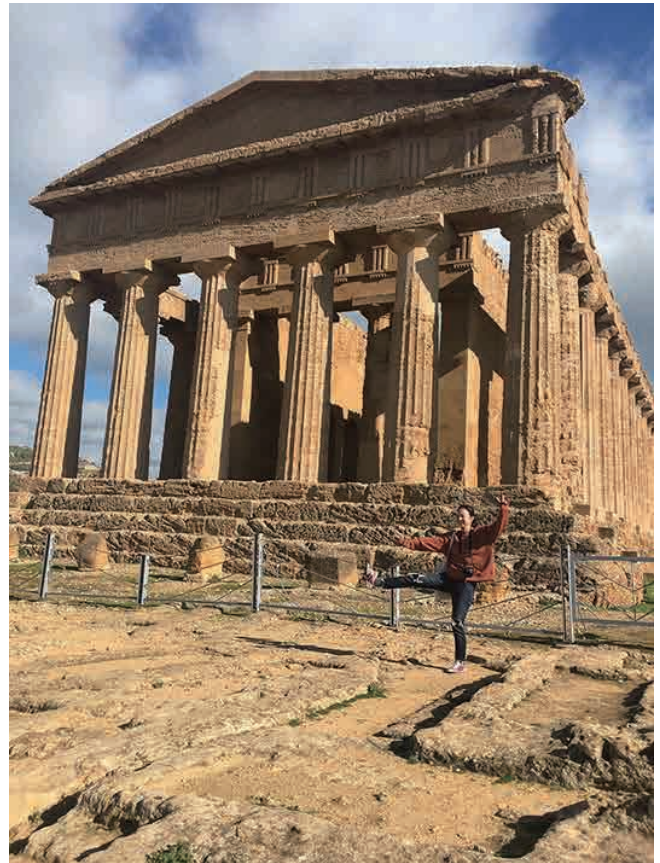
Atelier_制作物の一部



生活の状況

Trip in Sicilia

Atelier のプレゼン後クリスマス休暇に入りました。私は、サークルの友人がインターンでマルタ島にいるということで、4泊5日でイタリアのシチリア島に出掛けました。パリの気候とは打って変わり、太陽が輝き菜の花が咲き誇る春のような場所でした。シチリアに行くとパリがいつもどれほど曇っているかがわかります。ギリシャやローマの時代の遺跡をめぐり、海の幸を堪能し久々によく歩いた素敵な旅でした。2月中旬にイタリアに移るのが楽しみにもなりました。

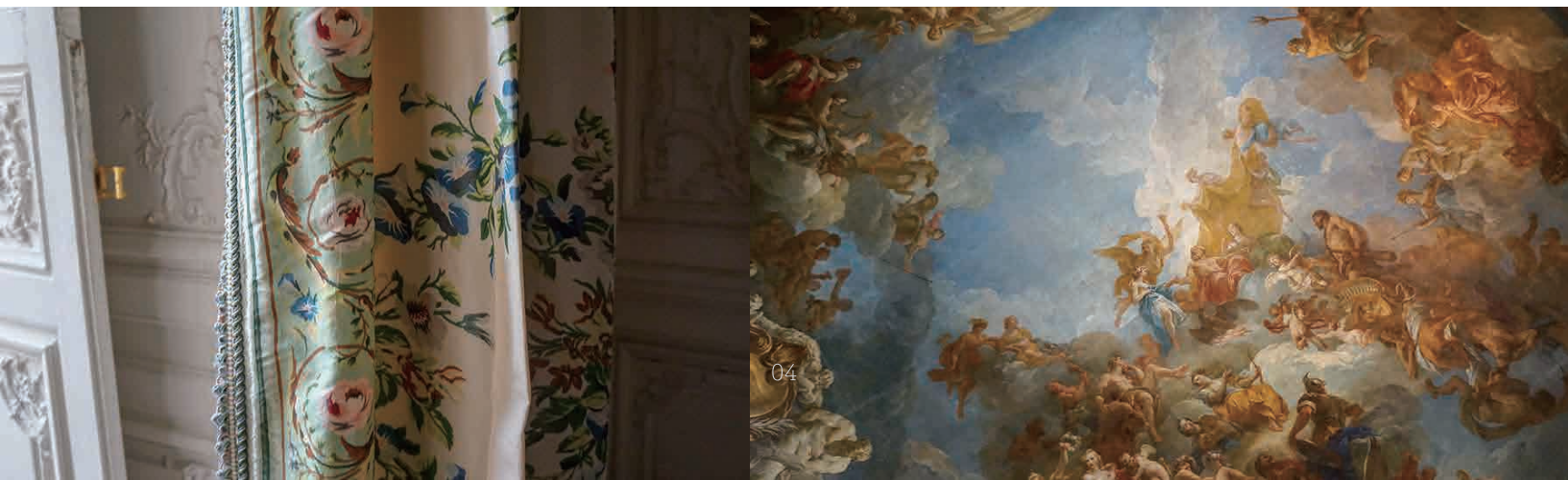


Agrigento in Sicilia 神殿の谷でふざけてみました

クリスマス休暇

クリスマス後、家族が会いに来てくれました。久しぶりの再会し、一緒に観光できとても楽しい5日間を過ごせました。日本食もたくさん持って来てもらいたい限りです。また、今回のためにとって置いていたヴェルサイユ宮殿は圧巻でした。当時の国の権力をまさに象徴した豪華絢爛な建物、マリーアントワネットが愛した田舎町を再現したエリア、極寒の中の観光でしたが、家族と回れたことで一層楽しむことができました。色々な人に支えてもらいながら留学させてもらっていることに感謝しつつ、ENSCIでの残りの日々を大切に過ごそうと思います。

ヴェルサイユ宮殿の内部 (左：シルクの刺繍カーテン 右：天井画)



PARIS

12月末で他の授業の最終プレゼンは終了し、残すところは Atelier プロジェクトのみとなりました。クリスマス休暇を長く取ったため新年は4日から授業が再開されました。18日にクライアントの前でのプレゼンを控えていましたが、自己管理が甘く新年早々体調を崩してしまい、ギリギリで作品を仕上げました。他の学生は余裕を持って制作を進めており、計画性のなさを痛感しました。



Chamonix で撮影した樹々。快晴でしたが細かく雪が舞っていて綺麗でした

勉学の状況

ここで今回の Atelier での私の作品を紹介したいと思います。このプロジェクトは先のレポートでも述べたように、「Luxembourg 公園に建設予定の幼稚園における保育士の方または園児達に対するソリューションの提案」が課題でした。私は子ども達の遊び環境と成長に合わせた遊びの変化に注目し、「想像し、組み立てる遊び」をコンセプトに『patagon』を制作しました。子どもは成長の中で色、形、光、手触りなどに興味を持ち、自分の感覚や身体の動かし方を学んでいきます。それらは遊びの中で養われ、約2歳まで一人遊びを中心としています。2歳をすぎると他者とコミュニケーションをとって遊ぶようになります。コミュニケーションが想像力や考える力、さらなる身体の成長を促し、

できる遊びの幅が広がっていきます。私はここに、子ども達がさらに活発に学べる「遊び」の可能性を感じ、「子ども自身で自由に組み立てることができ、ほかの子どもと一緒に想像力を働かせ、遊びを展開できるもの」を pata-gon の軸としました。

Pata-gon は正五角形の6つのパーツから成るブロック遊具です。直径45cmのブロックは芯材にウレタンフォームを用いており子どもでも軽々持ち上げることができます。表面は除菌しやすいようビニール加工した生地を使用しています。五角形の各辺には磁石が埋め込まれており、組み立てるのも壊すのも自由自在です。6つ全てを組み立てれば、子ども一人が入れる空間を作ることができ自分だけのスペースで遊ぶことも可能です。



(上) 組み立てた pata-gon (下) 磁石で組み立てる様子

Final Presentation

最終プレゼンでは、1/1 スケールの作品とともにスライドを用意し5分程度のプレゼンを行いました。幼稚園の先生とクライアントの方を含めて15名程に来て頂き、その後 ENSCI の一階にて展示を行いました。ENSCI の学生はフランス語でプレゼンだったので、私も最善を尽くそうと友人に翻訳を手伝ってもらいフランス語でのプレゼンに挑戦しました。ただ発音があまり良くなかったのか、きちんと理解してもらえたのかは不明です。プレゼンの後の展示にて幼稚園の先生から面白さや安全性についてフィードバックをいただいたのは非常に有り難かったです。ほかの学生の作品は、スペースデザインから保育士さんに向けた設備、遊具など幅広く、とても参考になりました。

プレゼンの翌週、幼稚園の先生にお願いしたところ、実際に制作した遊具を子ども達に遊んでもらう機会をいただくことができました。遊んでもらうことで、子ども達がどのように遊びを展開するか見ることができ新たな発見もありました。2歳の子ども達に遊んでもらった時は、先生が率先して遊び方を示し子ども達はそれを真似るように遊んでいました。次に3歳の子ども達に遊んでもらったところ、パーツを積み上げてその上に乗って遊んだり、床に並べて飛び乗って遊んだり、私の想定していなかった方法を次々に思いつき、どんどん遊びを発展させてくれました。磁石でくっつく構造もすぐに理解し、新しい組み立て方にチャレンジする姿に感動しました。子ども達の想像力が私のそれを大きく上回っており、反省すると同時に、この授業が終わっても、さらにブラッシュアップしたいと思えるプロジェクトにすることができました。



pata - gon で遊ぶ子どもの様子



パーツを崩して遊ぶ様子

Semester 1 を終えて

この半年を振り返ると、ENSCI で学んだプロジェクトの捉え方や制作過程は今まで培ってきたものとは異なる、新鮮で興味深いものでした。たった1セミスターしか在籍していませんでしたが、「まず手を動かし試すこと」の重要性と楽しさを発見することができました。Atelier の教授の方にも「模型での再現力やプロトタイプスキルが非常にある」と褒めていただき、気づかなかった長所を知ることができました。

来月から Politecnico di Milano に移り新しい生活が始まります。Polimi はプロトタイプ作りもさることながら、リサーチやセオリーにも重きを置いたデザインを学べると聞きます。この留学で学べることは最大限に吸収し、デザインの幅を広げ深められるよう努力したいと思います。

生活の状況

Trip in Chamonix & Nice

セミスターも終了し、留学生の友人が帰国する前にと計画していたバカンスに出かけました。向かったのは Mont Blanc の麓の Chamonix というウィンタースポーツが有名なリゾート地です。バスを12時間ほど乗り継ぎ、自炊のホステルに泊まりと節約旅でしたが、大満足の旅行でした。初めてノルディックスキーに挑戦し、雪が積もった静かな森林を、数時間のんびり歩くのは普段のスキーとは一味違い、心落ち着く不思議なものでした。数日を Chamonix で過ごしたのち、再びバスにのり南下し、Nice を訪れました。あいにくの天気で海岸は散歩する程度しかできませんでしたが、友人達と美術館 & 美味しいもの巡りをして楽しみました。知り合って長くはありませんが気の合う友達と出会えたことにとても感謝しています。



(上) Nice の浜辺、曇り空
(下) Chamonix で見つけた小川。この近くを散策しました

PARIS

to

MILANO



エッフェル塔の見納め。夕方の空にパリのシンボルがよく映えます

ENSCI の授業は 1 月末までだったため 2 月は小旅行を楽しみながら、引越しの準備に追われました。パリからミラノへ移る際、母が引越しの手伝いに来てくれました。7 時間電車で揺られながら移動は、フランスの田舎や山間の町の風景を見ることができ新鮮で、移動時間が全く苦にならない旅でした。飛行機や深夜バスで時間を有効に使うのも良いですが、たまには移動そのものを楽しむのも面白いと感じました。

勉学の状況

2 月の 4 週目から Politecnico di Milano での授業が始まりました。3 週目には留学生のための welcome week があり、授業の登録の仕方や学校での生活についての説明がありました。ただ私は日程を間違えており Design ではなく Engineering 科の説明会に参加してしまい、Polimi を把握するのが一歩出遅れてしまいました。そのため受講しなかった授業の一つである Lighting の授業が聴講になってしまい残念です。

Polimi の授業形態は ENSCI とは大きく異なり、広い教室にて講義形式で行われます。学生も 40 人以上おり留学生がその約半分を占めているという印象です。大学も一つの都市のように巨大で University であると実感します。私は Interior and spacial Design コースに所属しており、以下が私の授業スケジュールです。

	Lunedì	Martedì	Mercoledì	Giovedì	Venerdì
9:15	Ephemeral & Temporary Space 2	User & Social Innovation		Lighting	
13:15		Technologies for the Fashion Product			
14:15					
18:15					

一週間の授業スケジュール
(赤色の授業は Interior&Spacial Design のもの)

この授業がメインの授業で、グループワークで調査と提案を行います。今期のテーマは「Rebellion (反乱)」と「Value (価値)」この二つのテーマをどれだけ掘り下げて考えられるかが鍵となりそうです。現在、Jared Diamond の著作『銃・病原菌・鉄』を読み、考察中です。

毎回イタリアで活躍するデザイナーの方を招き、ユーザー目線の考え方やイノベーションのあり方について実例を見ながら学びます。それらを踏まえ、将来のデザイナー像を描きます。

イタリアのファッションデザインを土台とし、生地や素材について学びます。また、ファッションの流行や市場についても調査を行います。

Ephemeral & Temporary Space 2 の授業風景

聴講となってしまったこの授業ですが、ライティングデザインを学び、その効果と可能性について考える授業でとても楽しみにしています。



Polimi では講義スタイルの授業が多い分、知識を広げるべくなるべく文献や先行事例、未来動向に目を向けたいと思います。また、グループでの提案になるためチームワークや自分の役割について気かけたいです。

そして、今回 Interior & Spacial Design コースに所属することができたので、帰国してからの大学院生活やその先の将来を見据えた行動を心がけようと思います。

生活の状況

滞在許可 Kit の提出

滞在許可 (permesso di soggiorno) を得るため郵便局に書類を提出しに行きました。書類を受け取る際、近所の郵便局を数カ所訪ねたのですが、どこかの在庫がなく、結局 Duomo の中央郵便局まで足を運びました。提出後、移民警察署から呼び出しがあるようで、日程を確認したところ 5 月とかなり先で驚きました。フランスでの滞在許可取得の際も時間を要したため、日程が分かっている分不安はありませんが、諸手続きがいつか楽になることを願います。

新しい住まい

パリでは、市の中心地に部屋を借りていたため、今回は心機一転、ミラノ郊外の広大な公園の側を住まいとして選びました。通学に 1 時間ほどかかり、電車通学にはまだ慣れないですが、静かで日当たりも良くとても住みやすいところです。だいぶ暖かくなったので、時間があるときは近所をランニングしています。スーダンから来ているフラットメイトもとても気さくな人で楽しくミラノライフを送れそうです。



近所の公園 湖の周りをランニングできます

Day Trip_ La Thuile

授業が始まって一週間、ミラノでの滞在は4ヶ月ほどしかないので活発に動こうと思っています。ということで、先週はフランスとの国境近くのLa Thuileに友人とスキーに出かけました。1月に旅行したChamonixの時よりも雪は少ない印象でしたが雪の質が良くレンタル代も総じて前回より安かったため大満足でした。森林限界よりも山の標高が高いため、ゲレンデはとても見晴らしが良く圧巻でした。小さい頃から両親とよくスキーには行っていましたが、当時は向上心があまりなく、それ程上達しなかった自分に少し後悔しています。



滑っているところを友人に撮ってもらいました



素晴らしい景色で最高のリフレッシュになりました



週末に出かけた Luzern、Rotsee 湖畔

MILANO

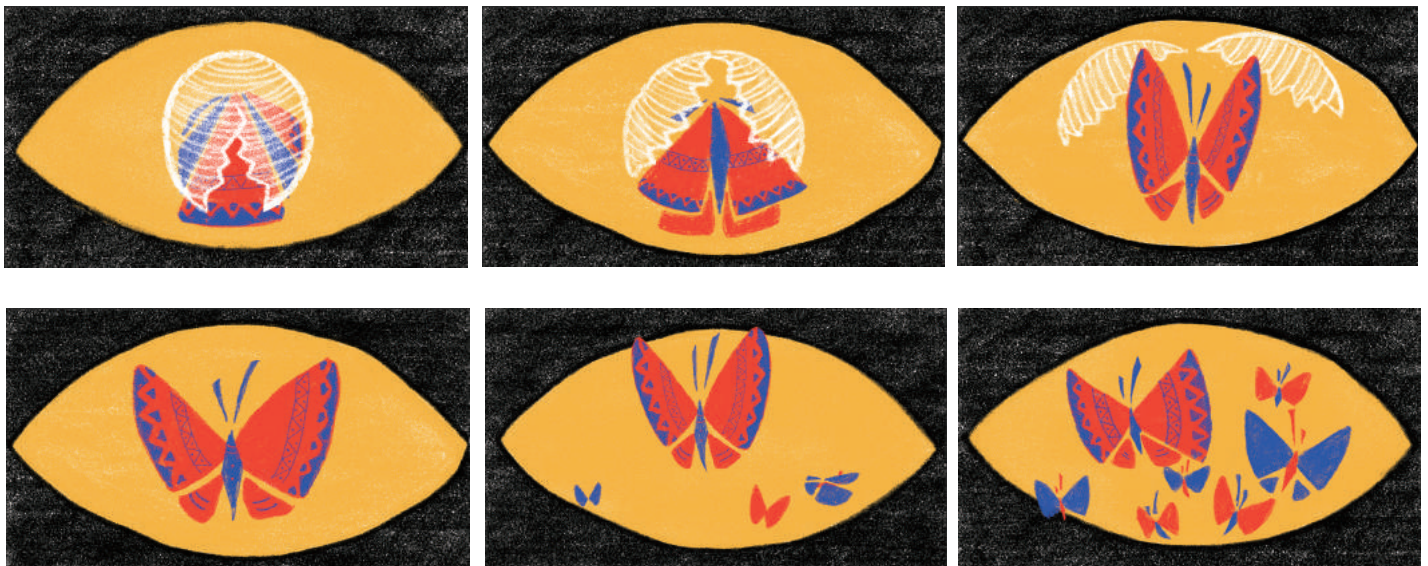
大学が始まり 1 か月が経ちました。
日本ではあまり見かけない春の花が
駅までの道を彩り、気分をあげてくれます。
通学の電車が非常に混雑することもあり
東京の満員電車を思い出されます。

勉学の状況

Studio Ephemeral & Temporary Space 2

Studio 最初の課題は、授業のテーマである「Rebellion」をグループ毎に事例調査を行い、コンセプトを決めることでした。調査に対してどのメンバーもとても意欲があり、持ち寄った情報量の差に反省させられました。建築だけでなく、プロダクトや絵画、映画の視点からもそれぞれが「Rebellion」だと思う事例を集めてきており、話し合いが広がりました。その後私たちのグループのコンセプトは「Rebellion is awaking」に決定し、コンセプトを表す 60 秒のムービー制作に取り掛かります。しかしここで、実体のないコンセプトをどうアニメーションとして表現するかで意見が大きく分かれてしまいました。Awaking は「目覚め、気づき、呼びおこされる」の意味で使っていますが、それを直接的に表現するかどうか、またムービー自体がきちんと Rebellion を含んでいるかどうかの話し合いに多くの時間を費やしました。制作期間も 2 週間ほどで、方向性が定まらない状況でのもう一つの課題は、デジタルのイラストに対するスキルに差があることでした。コマ送りのアニメーションをスムーズに動かすためのイラストの枚数が意外と多く、パート毎に 4 人で分担して作業を進めるため、どうしても画風に違いが出てしまいます。

一度、30枚のイラストを曲線や角が微妙に違うとのことで全部描き直すことになった時は、心が折れそうになりました。こまめな連絡、相談の重要性を身に染みて感じました。ただ自分の絵を人と比較することで、客観視することができ見直すいい機会になったと感じています。またアニメーションにおける音楽の効果を再認識させられました。電車の発車音などの日常の中の音を生かして音楽を作成し表現しているチームがあり、発想力と実行力に感心しました。制作したムービーと授業のテーマ、そして最終成果物である建築物がこれからどう繋がっていくのか不明瞭で不安な点もありますが、久しぶりのグループワークなので力を入れていきたいです。



アニメーションの一部。制作の大変さが身にしみました

User & Social Innovation

この授業では、これまで世界各地で起こってきたソーシャルイノベーションを例にその傾向を分析し、未来動向を調査しています。現在では至る所で見られるカーシェアリングが、1980年代には紙と電話を用いて自動車を予約する仕組みとしてドイツで行われていたことには驚きました。また Ezio Manzini 氏によって提唱された SLOC Scenario (Slow, Local, Open, Connected) はこれからの日本の地域社会にとってより重要な観点ではないかと考えられ、4時間の授業も充実した時間を過ごせています。

Technology for Fashion Products

授業の際、旭化成の海外支部の方が講師として来ていただきました。Cupro という綿の種の周りについた僅かな綿毛を収集し水圧で撚ったヤーンの活用を紹介してくれました。この素材は収集量が多くないため高値で取引されるそうですが、廃棄されてきた種を買い取り、無駄なく利用する点に感動しました。しかし他のファッションデザインの学生の反応を見てみると、糸にするまでの過程での環境負荷を指摘し、綿自体にあまり良い印象を持っていないようでした。私たちの生活や生産消費の行為が、必ず環境に影響を与えていることを忘れてはいけなと感じました。



右：種の周りの綿を集めたもの
左：洗浄したもの。優しい触り心地

生活の状況

Weekend Trip_ Luzern

週末、Studio のグループのメンバーとスイス・ルツェルンに行ってきました。ミラノから3時間ほどでスイスに行ってしまうという、陸続きの国の魅力を感じさせられました。ただルツェルンは物価が高くあまり贅沢はできなかつたため、町外れの森をひたすら散策したり、湖のほとりのベンチで小一時間談笑したり、美術館を巡ったりとのんびり時間を過ごしました。留学に来てから、長らく嫌いだった「歩く」ことの楽しさを再発見でき嬉しく思います。



日本食料理屋 ふくろう

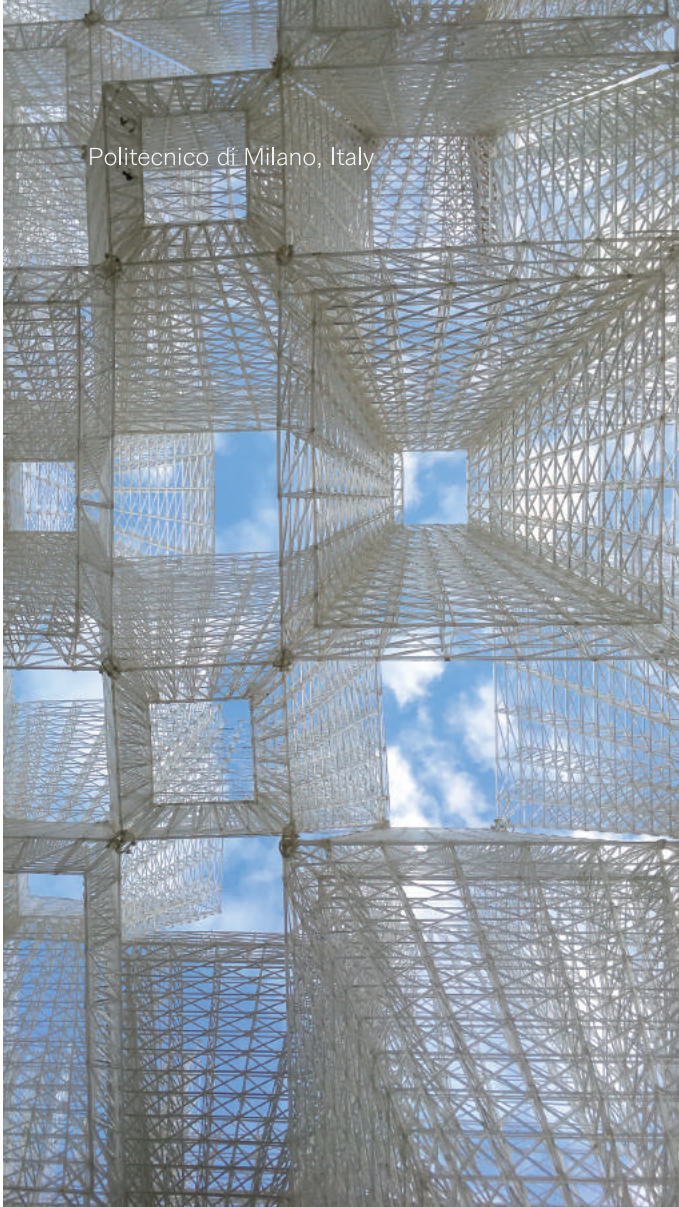
3月末、学科で行われる卒業証書授与式にテレビ通話で参加しました。同級生の晴れ姿を見て改めて自分が遠く離れた場所にいると感じました。このまま3月が終わってしまうのが悲しかったため、デザイン学科から同じくミラノに留学している3人で市内の日本食料理店に行きました。現地の日本人からも評判の店らしく店内の雰囲気はまさしく日本のちょっといい料理店でした。たこわさやお刺身、日本酒、丼物も大変美味しく幸せな時間を過ごせました。舌の記憶は鮮明らしく今でもあの美味しさを思い出せるのが不思議です。

フラットメイト

フラットメイトはスーダンからの留学生の女の子で、学校の勉強に追われているらしく、いつも忙しそうです。時折、お祈りの音楽やお香の香りが部屋を包み、新鮮な気持ちになります。留学では、現地の人々の生活だけでなく、バックグラウンドの異なる人たちと知り合えるのもその魅力の一つです。日本の料理にも興味を示してく、近いうちにお味噌汁に挑戦してくれるそうです。私が自信を持って作れる料理が少ないことが悔やまれます。最近、近所のジムに通い始めたらしく、今度一緒にダンスのエクササイズに行く予定です。



お刺身とタコワサを頂きました



服ブランド COS の展示。 全て 3D プリントでできています

MILANO

今月はミラノを代表するイベント、ミラノデザインウィークがありました。街中に展示あるという話通り今までに見たことのない規模の展示会でした。企業の展示からアーティストのものまで幅広く、この期間にミラノにいられたことを有り難く思います。忙しくもありましたが、充実した1ヶ月を過ごせました。

勉学の状況

安藤忠雄さんの特別講義

デザインウィークの期間中、大学で建築家の安藤忠雄さんを招いた特別講義がありました。会場の席の予約はすぐに埋まってしまったため、コンコースからの立ち見で、人混みの合間を縫ってなんとか聴く事ができました。安藤さんの声で、彼の建築の物語が語られていくのを聞いたのは本当に幸せな事です。イタリア語での同時通訳があったのですが、日本語でそのまま理解できた事を誇らしく感じました。市内で安藤忠雄さんの展示会も催されており、そちらにも足を運びました。せっかく日本に住んでいるのにほとんど実物を目にしていなると痛感し、日本に帰ったら巡礼の旅をしようと心に決めました。

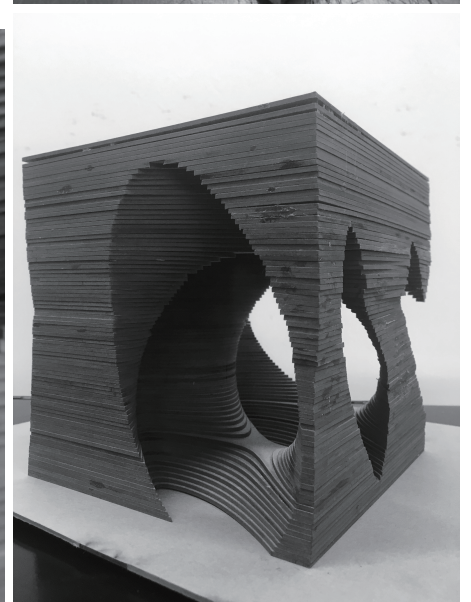
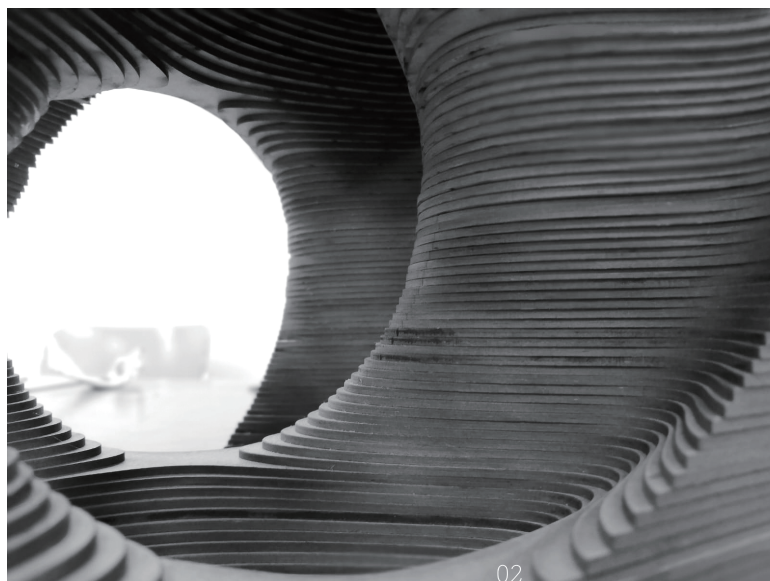
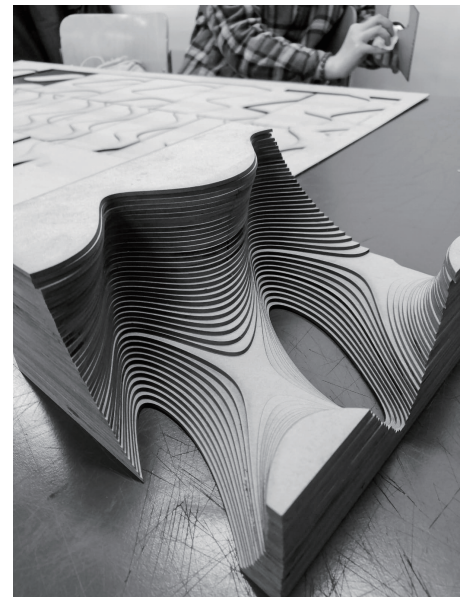
安藤忠雄さんに真近くで会う事ができました



Studio Ephemeral & Temporary Space 2

今月はデザインウィーク以外にもイースターの休みが10日ほどあったため、授業の進捗は遅めです。休みの間も何度かオンラインでミーティングを行いアイデアのブラッシュアップに努めました。4月中旬に「Rebellion is awaking」を表すアイデアのレビューがあり、そこで先生に「Against Comfortable」を表現してみてもどうかというアドバイスを頂きました。これまで私は、空間とは利用者にとってなるべく居心地がいい場所を目指すべきだと考えていたため、このアドバイスにはハッとさせられました。快適さに対し、そこから立ち上がりポジティブな意味で「反乱」を起こす事への可能性を感じ、これからが楽しみです。

下旬には建築模型のフィードバックがありました。今回はメビウスの輪から着想を得た空間を提案しました。メビウスの輪はその形状から「無限」を意味し、それを空間に広げることで、不安定さを感じたり、好奇心を唆られるのではないかと考えました。模型では、立方体を螺旋でくり抜いた形状を紙を積層する事で表現しました。形状からはループを把握できないと指摘がありつつも、教授から面白いとの評価を得られたのでブラッシュアップを続けていきます。早いもので、最終プレゼンまで残り1か月と迫っているので気合いを入れて取り組みたいです。



右上：積層の様子
右下：模型全体
左：空間内部の様子

生活の状況

Milano Design Week _01

ミラノデザインウィークでは、日本人のデザイナーさんの出展の手伝いをさせていただきました。什器の搬入や設営、作品であるインスタレーションの組み立て、そして期間中は展示を見に来てくれた方に英語・日本語で作品の紹介なども行いました。作品のパーツを提供している会社の方とも知り合うことができ、将来についての相談にのって下さったり、お食事に連れて行って頂いたり大変貴重な経験をさせていただきました。期間中お会いできたデザイナーさんも企業の方も、自身の作品や仕事に自信と誇りを持っており、情熱を持って接して下さり、私の目指したい社会人像がそこにはありました。慌ただしい2週間でしたが、冒頭でも述べたようにこの時期にミラノに学生としていたことを非常に有り難く思います。



インスタレーションの組み立て中

Milano Design Week _02

東京ビックサイトの数倍あるのではないかというメイン会場のひとつ、Fiera ではサテリテと呼ばれる学生や若手デザイナーが展示できる地区があります。そこで、以前学科のワークショップで出会ったメキシコの学生がプロジェクトを展示していました。プロジェクト自体もさることながら、国を超えて自分たちのやっていることをアピールする場に挑戦するという意気込みに感動しました。離れたところでも友人たちが頑張っていると思うとモチベーションが上がります。

Milano Design Week _03

手伝いの合間に、数多くの展示を見て回りました。日本の企業からの出店も多く、いくつか面白かったものを紹介します。まず、ダイキンと nendo のコラボの展示では偏向板を切り取った花と、偏向板を使ったライトを用いた、これまでとは異なる「風」の表現が美しい空間でした。2つの偏向板の角度により、光の透過度が変化し、まるで風に揺れるように花の影がゆっくりと変化します。真っ白な空間にいるにも関わらず、不思議と鮮やかさを感じました。

また、カリモク家具の展示ではデザイナー小林幹也さんとの作品で曲線の美しいシーソーや滑り台、ブランコを展示していました。遊具でありながらあたたかさがあり、庭付きのアパートを改装した展示空間は心地よいものでした。

Union の展示では、鑄造の全過程のデモンストレーションが行われており、一週間もあるデザインウィークの展示の見せ方として非常に面白く、感動しました。表現方法の多様性を見ることができとても良い勉強になりました。



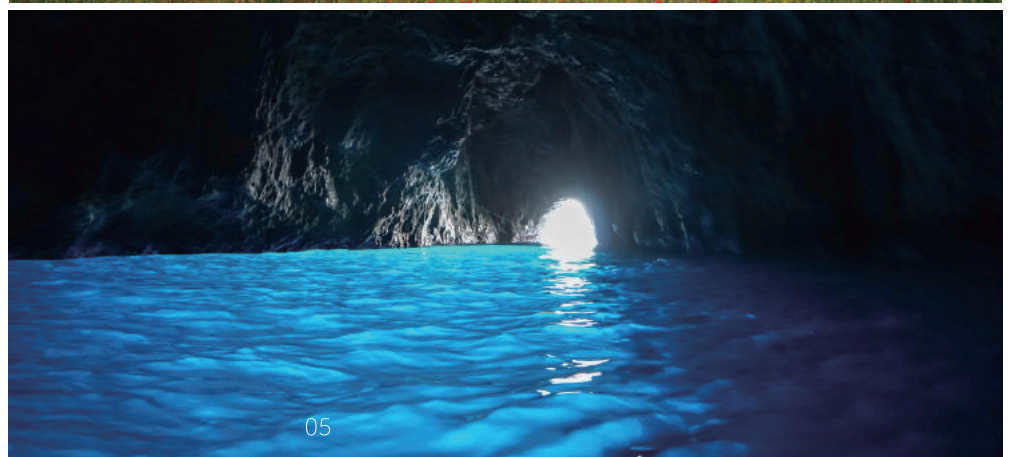
右上：カリモク家具の展示。滑らかなカーブのシーソー
右下：Union の展示。中央に金属に圧を加え冷却するための土があります
左：ダイキン × nendo の展示。偏向板により影に強弱が生まれます

Easter Holidays_ Napoli / Pompei / Capri

イースター休暇を利用してナポリとの周辺を巡ってきました。出発3日前にチケットと宿をとる弾丸旅行だったので11時間バスに揺られることとなりました。違う国にきたのではないかと、いうくらい街の情緒が異なり驚きましたが、ピザに海鮮と料理は素晴らしく美味しい街でした。

今回のメインの目的は小学生の時から夢だった、火山噴火によって消滅したローマの都市ポンペイ遺跡を訪れる事でした。実際に行ってみると、驚くほど街が整備されており、公共の浴場やバー、円形劇場と施設も充実していて2000年前の世界の遺跡とは信じられませんでした。自然災害によって滅んだポンペイですが、灰に埋もれていたからこそ人によって破壊されることなく、2000年後の私たちが目にし、当時の人々の穏やかな暮らしに想いを馳せられると思うと不思議な気分です。朝から5時間以上歩き回っても街の全てを見れない程広大で、大満足の1日でした。

別日にナポリから1時間ほどの所にあるカプリ島に行きました。有名なのは石灰を含んだ海底が太陽光に反射し、洞窟が美しく照らされる「青の洞窟」。その鮮やかな青に言葉を失いました。ボートを漕ぐお兄さんがナポリ民謡「サンタルチア」を歌ってくれ感動倍増でした。ボートに乗って洞窟の中に入れたのはほんの数分でしたが、見てよかったと心から思えます。ただ、恐らくアジア人だったからか他の乗客は要求されていないチップを10ユーロ渡すことになったので注意が必要です。



上：ポンペイ遺跡
下：青の洞窟

MILANO

どの授業も終盤に差し掛かってきました。後1か月ほどしかイタリアにいないと考えると、本当に短く感じます。写真はランニング中に公園で見つけた葦の草です。初めて葦を意識して見たかもしれません。



勉学の状況

Lighting

聴講で参加している Lighting の授業ですが、照明の捉え方に関する講義が終了し、最終プレゼンに向けたグループワークが始まりました。「リゾート地のあ豪邸の照明デザイン」というスケールの大きい課題にクラス全体がどよめきました。考えてみると、店舗や展示における照明デザインにはこれまであまり注目したことがなく、どのような実例があるかをよく知らないことに気付きました。アウトプットをする以前にインプットをしっかり行い、コンセプトやリファレンスをじっくり考えたいと思いました。

5月中旬、中間発表がありました。私たちはグループのコンセプトを「Natural」と定め、ファサードに滑らかな大理石や木、竹などを用い、夕陽に照らされながら時間を過ごす別荘をイメージしました。私は地下とサウナやスパを含めたリラクゼーションエリアを担当しましたが、教授に廊下の証明計画について鋭く突っ込まれ、あたふたしてしまいました。今後は、中間発表のアイデアをもとに部屋ごとに照度計算を行い、照明の整合性や表現したい雰囲気ブラッシュアップする予定です。SketchUp や DIALux、Lumion といった今まで触れたことのなかったソフトにも挑戦する機会となり、非常に勉強になります。



デザイン対象である豪邸の全体の照明イメージ

Studio Ephemeral & Temporary Space 2

前回の模型と教授からいただいたアドバイスをもとに CG を作り直し、形と大きさ、その空間で得られる印象について再検討を行いました。中の空洞の形状が螺旋を描くように変化するため、全てのパーツをレーザーカッターで切削し板を一枚一枚積層し模型を制作しました。最終プレゼンでは、模型だけでなく 90 秒のムービーも重要な要素となっており、映像の中で「Rebellion」「Awaking」「Against Comfortable」を表現しなくてはなりません。現在、学内のフォトスタジオを借りて、模型の撮影をしています。まず取り掛かったのが前回のアニメーションの際も用いたストップモーションです。切り出した板を接着せずに順に重ねていき、その都度写真を撮ったのち、写真を順に見ることで螺旋の中に引き込まれていくような演出をしています。積み上がるごとに不安定になっていくため、中々精神を削られる作業でしたが、全てのレイヤーが撮影し終わり写真をコマ送りで再生できたときの感動は想像以上でした。



User and Social innovation

この授業では筆記の試験が5月中旬に行われました。白紙のA4の紙が3枚渡され、問題は3文。自分の文章力の無さを痛感しました。授業を理解するために、一度日本語に頭の中で変換していたため、それを紙の上で英語に直すのに苦労しました。一瞬全部日本語で書いてしまおうかと血迷いました。留学を経て、一日中英語で会話するという環境には慣れましたが、自分を表現するためには英語力を向上させていかなければならないと強く感じました。

生活の状況

Polimi Run Spring

年に2回の大イベント、マラソン「Polimi Run」に参加しました。コースはデザイン科のキャンパスである Bovisa からもう一つのキャンパス Leonardo までの10kmで、なんと15000人が参加したそうです。中高と陸上競技をやっていましたが、自分の体力に不安しかなかったため、2週間本気のトレーニングに励みました。アパートの近くに広大な公園があり、そこでランニングをしている人も多く、三日坊主にならずに済みました。

マラソン当日、あいにくの雨で気温は13度ほどでした。マラソンは晴れた日より曇りの方が走りやすいと言いますが、さすがに寒く感じました。一万人以上が列をなしているため、先頭集団のスタートは見られませんでした。合図と共に大歓声が起こり会場の興奮は最高潮になりました。始めは一緒に参加していた友人と走っていたのですが、開始10分くらいで「もう走れない、ゴールで会おう」と言われてしまい、一人で走ることになってしまいました。交通規制された公道のその真ん中を走れるのは中々気持ちのいいものでした。無事、休むことなく走りきることができた時の爽快感と疲労感はいいものでした。ゴールでは別の友人がカツ丼を作って持ってきてくれ、最後の2kmはカツ丼のことしか考えられませんでした。完走後に美味しいカツ丼が頂けて幸せでした。

陸上をやっていた頃とはとにかく長距離が苦手で、楽しさをほとんど見出せませんでした。走り終えた時の達成感と、普段の練習のランニングもいいリフレッシュになることを発見しました。いまの時期日も長いので、夕方涼しくなったからのランニングは続けていきたいです。



ゴール後とゴール直前の様子

フラットメイト

イースターホリデーの最終日、フラットメイトの子が国に帰ってしまうとの報告を突然受けました。春に体調を崩した後気が減入ってしまったらしく、帰国を決めたそうです。やはり一緒に暮らしていた人がいなくなってしまうのは悲しいことです。彼女が元気になれることを願うばかりです。しばらくアパートでの一人暮らしが続きましたが、新しくインドからの留学生がフラットメイトになりました。キッチンからいつも香辛料が香り、食欲をそそられます。残り短いですが仲良くできたらと思います。



帰国の日アパートからの朝焼け

早いものでもう帰国する月になりました。

素敵な留学生活を送れたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

■ 勉学の状況

Studio Ephemeral & Temporary Space 2

週末に模型を使った「Rebellion」を表現する動画の撮影を行いました。模型を綺麗に撮るだけでなく、常に「Rebellion」を念頭に置かねばならず、何度も撮り直しました。模型に光を当てその影を撮影したり、煙を焚いて模型空間を満たしてみたりと試行錯誤でした。フィードバックの日、イタリアにある様々なパスタを材料にし模型を制作していたチームが、動画内で模型がハツカネズミに囓られてなくなっていくという動画を撮っており衝撃を受けました。ただ模型がかっこよく見えるように撮影するのではなく、そのアイデアが意表を突いており感心させられました。クラスメイトに刺激を受け、動画を編集し直し最終プレゼンに挑みました。この大学で、インテリアデザインに挑戦でき、とても意義のある時間を過ごすことが出来ました。今まで学んできた分野と異なることがある分苦戦もしましたが、発見も多く俄然デザインに興味が湧きました。インテリアやプロダクトなど区別はされていても根底は一つに繋がっていると感じました。

Lighting

Lighting の授業の最終プレゼンに向けて 6 月の週末はずっと準備に追われていました。レンダリングだけでなく、電力消費や照度計算、取り付け方法の図面などたくさんの要素を準備しました。中間プレゼンの際は参考になる実例を集め、照明空間の雰囲気伝えることを重視しましたが、最終目的である「クライアントに向けたプレゼン」を想定した場合、数字などの根拠やリアリティが必要です。その上で、どう照明デザインを表現するか、面白くなるよう見せるかが課題でした。プレゼンに加え求められていたレポート以外にも、自主的にブックレットを制作し、なるべくビジュアルで理解してもらえよう努めました。プレゼンの結果、私たちのグループは 28/30 点の好成績を修めることができ、意図することを教授に伝えることができた満足しています。この授業では新しいソフトのスキルを身につけることができ、かなり収穫があったと思います。一方で自分の力不足を痛感した授業でもあります。グループのメンバーは仕事が早く、いつも一つ先のことに目を向けていたのに対し、私は目の前の作業で一杯一杯でした。インテリアデザインの経験が浅かったこともありますが、自分の武器を確立したいと強く思いました。



最終レンダリング

User and Social innovation

この授業では、定めたテーマの将来のトレンドを予測しプレゼンすることが求められました。私たちのグループは「食」の将来に目を向け、約1ヶ月、調査・分析を行ってきました。市内を巡り、ミラノにあるレストランのメニューを調べ、どこかにトレンドの種がないか見て回りました。その後インターネットでも事象を調査し、メガトレンドとの関係性、事例がボトムアップかトップダウンか、どの程度普及しているかなどをまとめていきました。注目したのは限られたコミュニティで行われている「食品の売れ残りを回収し有志の住民が料理しそれをコミュニティに提供するケータリングサービス」や「行政と協力し、子供達の健康を考えたメニューを作り、地域全体で活動していくサービス」など人との繋がりを意識したものでした。グローバルな社会において再び注目されるローカルな取り組みはこれからさらに広がっていくと思います。人々は改めてリアルなコミュニケーションを求めており、SNSや最先端の技術を活かすことでそれらの需要に応えていくことができ、グローバリゼーションとローカリゼーションの共生するのではないかと考えます。

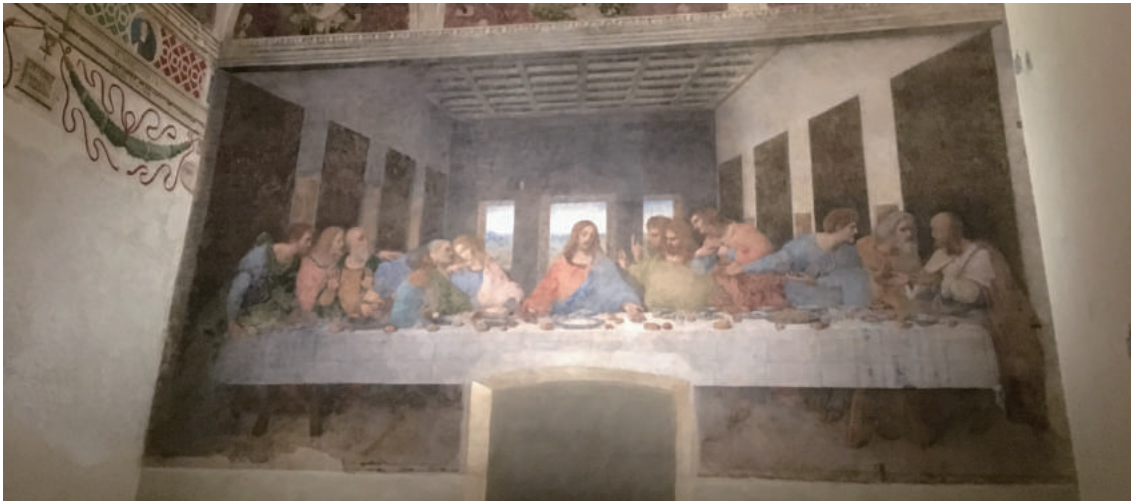
生活の状況

住民許可書発行されました

ミラノ滞在最終週、滞在許可証をやっと手に入れることが出来ました。2月に郵便局に必要書類を提出し、5月中旬に移民警察にて指紋を採取され、発行まで4ヶ月と長い道のりでした。たった一週間しか有効期限が残っていないのが切ないです。使う機会はないと思っていましたが、空港での出国の際、提示を求められました。危うくスーツケースに入れてしまうところだったので、手元にあり安心しました。もし発行が帰国ギリギリになったとしてもいつも持ち歩くことをお勧めします。

『最後の晩餐』

ミラノ最終週、念願だったレオナルドダヴィンチ作「最後の晩餐」を拝むことが出来ました。通常は予約がないと入れないらしく、サイトを確認したところ空きは3ヶ月後。見れないと諦めかけていましたが、意を決して朝一でチケット売り場に行ってみました。するとサイトには載っていないあまりがあったらしくその日の午後のチケットを手にすることが出来ました。足を運んでみないと空きがあるかどうか分からないのがイタリアらしいです。見学時間も厳密に15分と決められており、ゆっくりとは見れませんでしたが大変感動しました。1400年代の作品を今も目にできるというのは改めて素晴らしいことです。なんども修復されながら、時を超えて人々に大切にされる価値を目の当たりにしました。留学を通して、生活や芸術における宗教の重要性に幾度なく驚かされました。現代ではその傾向は弱くなっているのかもしれませんが、歴史を知り文化を理解する上で、今後宗教に対し関心を深めていけたらと思います。



『最後の晩餐』が描かれている修道院の壁

ミラノの暑さ

アフリカ大陸からの熱波の影響で6月は35度以上高温になる日が続いています。正直、イタリアはもっと涼しいと思っていたためかなり気が滅入ります。幸い湿度は高くないですが、日差しが強く肌が焦げそうです。大学にはエアコンが設置してある校舎も少なく、扇風機もなく窓を開けて換気するくらいしか方法がありません。先日、プレゼンの際大学の建物全体のブレーカーが落ち、暑さからの逃げ場がなくなった時は本当に辛かったです。いつでも空調が効いている日本が恋しくなりました。